

安来高校植物図鑑（2022年7月）

和名: アメリカフウロ（亜米利加風露）

淡い紫色が美しい花ですが、花よりも果実が目立ちます。右下写真のように斜め上に突出した果実が沢山できるので、簡単に見分けられるのですが、この果実をつぼみだと勘違いしている人が多いのではないかなと。「フウロ」とは在来種のゲンノショウコという野草のこと。花が似ていて、さらに北アメリカ原産なのでこのような名前になったのでしょう。街中の道端でよく見かける花なのに、安来高校では見かけないなと思っていたら、やはり咲いていました。



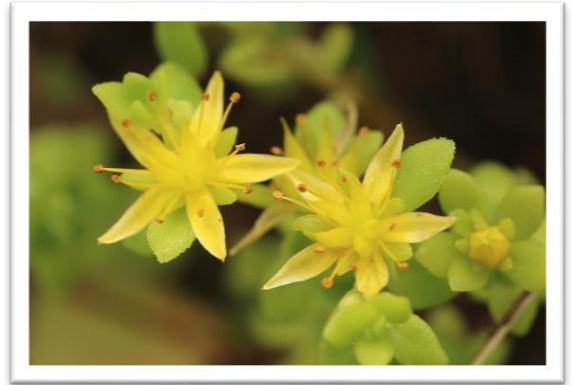
和名: チチコグサモドキ（父子草擬）

2020年5月に紹介したチチコグサに似ていることからこの名前がついています。ところが似ているとは思えないぐらい背の高さが違います。チチコグサモドキは背が高い！外来種で、戦後に一気に広まったとか。とにかく色が地味で、花だと気付かない人も多いのでは。よく見ると綿毛がついているのが特徴です。そして私がこの植物を見ていつも思うのは、必ずアリがいるということ。上の写真も真ん中あたりにアリが写っています。



和名: コモチマンネングサ（子持ち万年草）

分厚い多肉の葉が目立ちます。葉の付け根に「むかご」ができ、それが梅雨の頃に落ちてそのまま越冬し、翌春になると大きく成長する、という殖え方をしています。写真矢印の部分がむかごだと思われる。花は咲くけれどもおしべの花粉は成熟しないし、果実もできないそうです。何のために咲いているのか、不思議な花ですね。でも小さくて黄色が鮮やかで可憐な花だと思えます。



安来高校ではあまり蝶を見かけません。たまにシジミチョウの仲間がフワフワと飛んでいるのを見かけるくらい。先日、珍しくキアゲハが草に止まっていたので、急いで撮りました。このあと空に飛び立ったのですが、近くから別のキアゲハが飛んできて、2匹でどこかへ行ってしまいました。キアゲハは繁殖の季節なのか…、ということはあの青虫がどこかで生まれて育っているということですね。安来高校にいるのでしょうか。